機関誌として新発足の辞

畠　山　久　尙

"天気" が創刊されたのは約2年前のことであった．その発刊の有力な動機になったものは会員一般の調査，研究等の報文の発表機関がたりないということであった．同時に本誌には論説も載せたい，解説にも相当の頁をさきたいという希望があり，また単に会員を対象とするだけでなく，一般大衆をも顧客に考えようという動きもあった．こういうように本誌はその目標がややはっきりしないというううらみはあったが，2年弱の期間大体順調に発展の道を進んで来たように思う．

今度定かんの変更が実施されるに当り，"天気" も従来の "気象集誌" とともにわれわれの気象学会の機関誌ということになった．英国気象学会は "**Quarterly Journal**" と "**Weather**" とを機関誌としており，米国気象学会は "**Journal**" と "**Bulletin**" と "**Weatherwise**" とを機関誌としてもっている．この "天気" の編集者はおそらく頭の中に "Weather" と "Bulletin" とを描きながら，日本の気象界の事情を考え合わせて今読者の前に配られたようなものを作り上げた．

学会の機関誌は会員皆の雑誌なのだから，恐れることなく価値のある論文をどんどん投稿されたい．またこの雑誌をよくしてゆくことは会員皆の責任でもあるのだから，そのことについての意見もどしどし編集者あてに寄せられたい．

"天気" がその編集委員の大部分を入れかえて，われわれの学会の機関誌として新発足するに当り特に上に記した2つのことをお願いする．